

緊急案内! 必見!



**「奇跡」を「必然」にするために!
木村さんへの「あこがれ」で終わってはならない!
自然栽培の意味、肥料のリスクとは・・・!**

「木村さんはやっぱすごいな・・・!」

「どうしてあんなに笑顔なんだろう・・・!?!」

「リンゴや大自然と人がこんな関係になれるなんて・・・!」

「プロフェッショナル収録の時、スタッフが泣いて大変だったんだね」

木村秋則さんの「無料講義録ダウンロード」をご覧になったあなたは、木村さんが大自然の中で、リンゴとともに生きる姿に感銘を受けられたことでしょう。そして普段から食の安全に気を使われ、自然や人に関心を強くお持ちの方ではないでしょうか? でも、今回の講義録があなたの「木村秋則」さんのいわば、奇跡に対する「あこがれ」だけを助長し、木村さんが言う実践する意味を、私たちが伝えられていないとしたら……

プロとして大変心苦しいことだと思っております。

木村さんが言います。

「私の話を聞いてただ感動しても、正直みなさんにとって、本当の意味で役には立たないと思います。リンゴの実はリンゴの樹がお日様とともに実らしてくれました。みなさん自身に稔りをもたらすのは、やはりみなさん自身です。みなさんに、わたしのやってきたことを踏み台にして、世を変えていっていただきたい。この自然に添った、自然に学ぶ農業、自然に習う生き方をいっしょに育てていただきたいと願っています。」

もし、あなたが木村さんと同じような自然栽培農家の野菜やお米に関心があり、安心安全を手にしつつ、あなた自身の生活を通して、土と自然を元に戻していく取り組みに関心があるなら、お願いがあります。今すぐこの手紙を最後まで読んでいただきたいのです。大切なことを誠心誠意、書かせていただきました。

しかし、もし今食べている野菜やお米に満足していらっしゃるのであれば、ここで読むのを終えていただいて構いません。時間にして 20 分もかかりませんので、ぜひ一読ください。

20 分といえども貴重な時間をいただくわけですからお礼をいたします。木村秋則さんの指導を皮切りに始まった自然栽培のササニシキ作り。ハーモニック・トラストがおすすめる自然栽培歴 3 年以上ササニシキを、お試し期間の初回のお届け時にのみ、

「特別割引価格」にてお届けいたします!



【ごあいさつが遅れました。】

私は、個人宅配「ハーモニック・トラスト」の責任者をしております田辺寛雄と申します。ナチュラル・ハーモニーに入社して11年になります。これまで木村秋則さんや高橋博さんのような自然栽培の取り組みを伝え広げる仕事をさせていただいております。

私がなぜここまで申し上げるのか、それにはそれなりの理由があるのです。
今回は主食であるお米に焦点をあてて、みなさんにお伝えします。

安心安全はどのようにして得られるのか・・・

まず最初に大事なことは目の前の食料がどのように作られているのかということ。少し目を背けたくなるような現実があるかもしれませんが、まずは知っておかなければ、あなたの投資をムダにしてしまう可能性もあるのです。生活を通してあなたが違いを作るということは、消費という選択を適切に行うことを意味します。その選択をより自然に即したものにすることも、事実を知る必要があるのです。

【有機野菜や有機米にも使用の認められた農薬がある!】

お米や野菜で言えば、安心安全の代名詞にもなっている有機栽培。安心安全と言われる有機のお米や野菜でも、実際にはピンキリです。使用の認められた農薬があり、抗生物質・産業廃棄物が混入した肥料を使用していることもあります。さらにタネが遺伝子操作されたお米の品種もあるのです。これが、減農薬や一般米ならば、さらに深刻です。

肥料と農薬の関係は弊社 WEB サイトの「本物の野菜・玄米・調味料の見分け方」でもお伝えしました。またさらにナチュラル・ハーモニー代表河名の対談講義録 無料レポート「食は芸術なり」でも詳しくお伝えしています。こちらは現在無料配布しておりますので、まだご覧でない方は合わせてご覧ください。

「本物の野菜・玄米・調味料の見分け方」:

<http://www.naturalharmony.co.jp/trust/>

無料レポート「食は芸術なり」 ナチュラル・ハーモニー代表河名の対談講義録

<http://www.naturalharmony.co.jp/trust/harmonic-trust/muryoureport2.htm>

【農薬だけではなく、肥料にも問題がある!】

循環型農業・環境保全型農業といえ、聞こえがいいのですが、有機栽培の多くは家畜糞尿を肥料に使っています。ところがこの家畜糞尿。実はクスリまみれと言っても過言ではありません。作物を育てるチツソが過剰となるという意味で、家畜糞尿肥料は、化学肥料よりヒドイ可能性があるのです。また、クスリの使いすぎによって薬に耐性をもつ菌、つまりクスリの効かない菌の発生する危険性があります。

畜産は水の便が悪く、稲作や畑作のできない地域の基幹産業となっています。北海道の道東でも、重要な産業です。畜産を否定するつもりはありません。私も普段は肉を美味しくいただいています。しかし家畜の糞尿を農業利用することには、課題があるのも事実です。

日本人に使われる抗生物質の

なんと 2 倍の量が、日本の家畜に使われている!

抗生物質大国の日本。その日本人に使われているクスリとしての抗生物質。そのなんと 2 倍の量が、日本の家畜に使われているのです。年間の抗生物質使用量は人が 23%・520 トンなのに対し、家畜に与えられる量が 48%で 1,060 トンにもなるのです。まずはこの量の異常なまでの多さをご覧ください。※表.1

昔は、ワラや草だけを食べていた牛が、今やビールを飲まされ、穀物飼料を与えられ、強制的に育てられているのです。そして、そのエサのトウモロコシはアメリカからの輸入がほとんどで、遺伝子組み換えトウモロコシを使っている可能性が高いのです。そして他にも、穀物飼料には、その栽培過程での農薬・肥料のリスクが常につきまとっているのですね。

成長促進剤を使い、さまざまなエサを与えて少しでも短期間で効率よく育てる。家畜たちは、ほとんどが過密なストレスの溜まる環境で飼育されています。だからどうしても病気になりやすい。そこで抗生物質を大量に与え、何とか出荷できる状態を保とうと、人間は対処に明け暮れているわけです。ある時はエサに混ぜる、ある時は飲ませる、ある時は牛の乳房炎を防ぐ軟膏として塗る、このように抗生物質は多量に使われています。残念ながら現在の畜産はクスリ漬けと言わねばならないのです。

いわば病気が出るような無理な飼育をしておいて、クスリ漬けにする。こうして病原菌を押さえて、なんとか牛乳を搾る、卵を産ませる、大きく太らせる、とさまざまな工夫をしているわけです。

表.1 抗生物質の使用区分別使用量 (単位:t,純末換算/年間)

ヒト医薬品		家畜		養殖魚	作物
病院内	処方薬	動物用医薬品	添加物	水産用医薬品	農薬
100	420	830	230	230	400

資料:農林水産省・食品と暮らしの安全基金調べ ※2003年10月発表

【畜産とコメ栽培の人間都合】

この家畜の現状について、「あれっ」と思われる方もいるのではないのでしょうか。

無理やり肥料で大きく育てて、農薬で病気を抑える一般の農業に似ています。肥料が虫や病気を呼んでいる。このことを弊社 WEB サイトでもお伝えしました。成長促進剤ともいべき肥料でブクブクと育てられたお米や野菜は、農薬を使わなければ虫や病気に自然淘汰されるものだったわけです。過剰に植物に取り込まれた肥料中のチツノが病気を呼ぶこと、肥料があると作物は根を張らず、環境の変化に弱くなることをお伝えしました。

減農薬でお米を作ることも、日本の食糧自給率を考えれば、もちろん素晴らしい取り組みなのだと思います。しかし自然栽培農家は、農薬や除草剤を 1 回使うだけでも、土は完全に壊れてしまうというのです。そして農薬を使うということは、それほどの破壊力をもって、虫や病気を押さえ込むことを意味します。こうしてみると農業と畜産に共通した問題が浮かび上がってきます。

人間都合で無理をして育てて病気を作り、

人間都合で病気をクスリで押さえ込む。

結果、自然界のバランスからかけ離れた化学物質まみれの弱い食べ物が作られているのです。

【家畜糞尿は産業廃棄物】

野菜やお米と同じく、家畜もクスリ漬けになっている。

家畜たちは恐らく必死に人工の化学物質やクスリを体外に排出しようとしているのではないのでしょうか。だから家畜の糞尿には、クスリや化学物質がたくさん含まれるのが道理なわけです。化学物質やクスリが大量に含まれる汚物、それが家畜糞尿なのですね。そう、れっきとした産業廃棄物なわけです。

産業廃棄物とは、事業活動から生ずる廃棄物で、政令で 20 種の廃棄物が産業廃棄物として指定されています。ゴミを投棄することは環境や私たちに対するリスクの高いことを多くの人が知っています。しかし、農業の現場においては、そのリスクが放置されているとさえいえるのです。

【有機栽培米もさまざま...】

あなたはクスリ漬けの家畜糞尿肥料が、本当に土や環境にとって良いと思われるのでしょうか。有機肥料はピンからキリまであります。家畜糞尿を使わず、植物性の廃棄物である米ぬかやおから、海草などを使うものから、家畜糞尿を大量に使うものまでさまざまです。家畜糞尿を大量に使った有機栽培なら、かえって化学肥料を適量使って栽培している方が安全な場合もある、そう言っても過言ではないのです。

事実、微量の化学物質に反応してしまう化学物質過敏症の方の中には、化学肥料を少量使った米は食べることができたけれども、家畜糞尿を大量に使った米は食べられなかったという人もいらっしゃいます。

有機だからといって、使われる肥料の由来を知らずに「安心安全」と思い込むことには、リスクがあります。事実、農林水産省も JAS 有機認証制度が安心安全を保障するための基準ではないことに言及しています。有機認証制度の発想はそもそも良かったのですが、形骸化しているともいえるのですね。

【環境保全型農業・循環型農業の限界】

家畜糞尿は東京ドームを満タンにしてさらに 73 個分も年間に排出されています。ちょっとその匂いを想像するだけでもすごい状況です。家畜糞尿は平成 13 年度で産業廃棄物の 22%を占めています。その量は年間 9,100 万トンです。※1 循環型農業や環境保全型農業では家畜糞尿をはじめとする産業廃棄物を肥料として田畑にリサイクルすること、それが良いことのように推進されています。

しかし、

現代の家畜飼料は、海外からの輸入に約 75%頼っています※2。本当に循環を言うのであれば、年間 9,100 万トンなりの量ある家畜糞尿の、およそ 75%は海外に返すべきではないでしょうか!

ところが実際には家畜糞尿 9,100 万トンのうち、80%※3 が国内の田畑に使われています。そして家畜糞尿によってその土を、作物を、ひいては国民の体を汚しているのです。9,100 万トンの糞尿は、チツソ肥料に換算すると約 80 万トン※4 あります。これは製造されている化学肥料の内のチツソ肥料より、多い量なのです。(数字は年度によって多少の誤差があります。※1 農林水産省平成 14 年※2 農林水産省平成 19 年度 TDN※3 農林水産省 平成 14 年、平成 17 年には 90%に達している。※4 茨城県農業総合センター)

家畜飼料として海外から入ってくるばかりで、家畜飼料が変化した糞尿を海外に持ち出せないとしたら、環境への負荷は高まるばかりだと言えるのです。家畜糞尿を使った肥料が、何トンも山のように田畑で使われることがあります。でもその糞尿を排泄するだけの数の家畜が、その田畑の面積だけで生きることは、自然界において不可能です。

【地下水まで汚す肥料】

家畜糞尿肥料の使いすぎ、あるいは家畜糞尿の放棄もあって、畜産県では地下水汚染が深刻です。熊本県のある地域では、他県からの水と混ぜなければ飲み水を確保できないところもあるのです。地下水に飲料水を頼むヨーロッパでは以前から地下水汚染の問題が深刻でした。もちろん日本でも地下水汚染は深刻で、水質汚濁防止法により平成 13 年からやっと排水規制が適用されています。しかし、それでも地下水の汚染は進んでいるのです。

そうは言っても、あなたは「家畜糞尿はどうすればいいの?」と思われるかもしれません。

しかし、自然栽培農家がいいいます。

「田畑はゴミ捨て場ではない!」と・・・。

私たちは知恵を総動員して、この問題に当たる必要があります。でも田畑がそのツケを背負うのは、肥料も農薬も使わない自然栽培の現場において、間違っていることだけは確かなのです。農薬を使って栽培するなら家畜糞尿を使っても栽培することはできます。しかし、それでもその農薬と肥料のツケを食べる人間が払う。このリスクがあるのです。そして肥料や農薬によって土と地下水が汚れ、作物に病気や虫が出ることを知る必要があるのです。

【家畜糞尿のコストと厩肥税】

病原性大腸菌O157 や狂牛病に関する著書で知られるニコルズ・フォックスは、肉を食べる消費者は、処理が大変な家畜糞尿のコストを負担する「厩肥税(きゅうひぜい)」を支払うべきだといっています。厩肥とは家畜の糞尿を使った肥料のことですね。それほど家畜糞尿は負荷が大きいわけです。

また事実、こんなことがあるのです。有機栽培や一般栽培から自然栽培に移行していくとき、土にこれまでに投入してきた肥料や農薬を、土から取り除く必要があります。自然栽培農家の多くが、体験的に化学肥料を使っていた場所より、有機肥料を使っていた場所の方が切り替えに時間がかかることを知っています。有機肥料は遅効性と言われますが、それは土が肥料を掴んで、ゆっくりと働くことを意味しています。掴むということは、それだけ土から分離しづらいということでもあるのです。つまり有機肥料を使った土は、元に戻すのに時間がかかることになります。

有機栽培もピンキリ、これが実状です。だから場合によっては有機肥料よりも化学肥料の方が、マシな場合すらあるのです。

「もう、有機も化学も、どちらがいいとは、簡単に言い切れない」

これが実状です。

【汚染時代を生き抜く知恵】

有機、化学を問わず化学物質にまみれる肥料の現状をお伝えしてきました。私たちは、未曾有の化学物質にさらされた生活をしています。その複合汚染によってさまざまなアレルギー、アトピー性皮膚炎で苦しむ人が増えているわけです。花粉症まで含めたら、現代人の3人に1人がなんらかのアレルギーを持っているといえます。私たちの宅配を活用してくださっている方の中にも、アレルギーやアトピーの方がたくさんいらっしゃいます。もちろんガンなどの成人病を患っていらっしゃる方も。

昨今、胎児の化学物質による汚染が伝えられています。さまざまな化学物質は胎児にそのままダイレクトに影響します。肌につける様々な化学物質ももちろん、食品添加物や農薬も母体や胎児に蓄積します。私たちの身の回りは気が付けば化学物質だらけです。

こうしてみると少しでも、食べるものから化学物質を取り除く。そして複合的な汚染にさらされないようにする。そのことが、汚染にまみれた現代を生き抜く知恵といえるのです。

【高い投資で損をしてはならない!】

あなたが木村秋則さんに感銘を受けたのは、より自然な、人と大自然の関係を農業という現場でみることができたからではないでしょうか。そして、そもそも食の安全に関心を持つ理由は、あなたと家族を化学物質から守るためではないでしょうか。あるいは、化学薬品や農薬や食品添加物に疑問を持たれたからではないでしょうか。

だとするならば高い投資をして、肥料や農薬のリスクを背負い込んで元も子もありません。

農業の現場では、農薬を使っていようとまいと、有機だろうと化学だろうと、肥料を使って育て始めた以上、なんらかの肥料に頼らなくては作物を育てることができません。土はそういうリズム・構造になっているようです。つまり肥料を使う限り、「家畜糞尿をはじめとする肥料」と「農薬」、この2つのリスクが必ずついて回ります。

これらの問題を解決する知恵が、「自然栽培」にはあるのです。

【だから自然栽培のお米を! SIMPLE IS BEST ~】

こうしてみると、自然栽培は至ってシンプルです。

果樹栽培における醸造酢を除いて、肥料・農薬を一切使う必要がないからです。

木村秋則さんや多くの自然栽培農家が人として魅力的なのは、自然に合わせていく中で、自然のシンプルさを通して自らをそぎ落とし、磨かれているからだと思うのです。

だから私たちは「自然栽培」のササニシキやコシヒカリを、「自然栽培」の野菜を、そして「くだもの」を食の安全を真剣に考える方々に、人と大自然について感受性豊かなあなたに、ご提案するのです。肥料や農薬の使われていない食べ物を確保する。そして継続して生活に取り込む。そのことはあなたが「安心安全」を自らのものとし、自らの生活を通して自然を感じ、社会を変える実践をする第一歩なのではないでしょうか。

高い投資ですから、有機のお米や野菜や果物を買うにしても、自然栽培のお米や野菜や果物を買うにしても、メリット・デメリットをしっかりと見つめていただきたい。投資に見合うリターンが「あるのか」「ないのか」をしっかりと見極める必要があるのです。

まとめていうなら・・・

一切肥料を使わない自然栽培のお米や野菜やくだものの
「シンプルな安全」をおすすめします!

なぜなら、自然栽培は肥料や農薬を使わないので、
家畜糞尿肥料を始め、肥料の「リスク」が極めて少ないからです!

一切肥料や農薬に頼らない自然を主とする自然栽培。その
「シンプルな大自然」が、人をシンプルにしてくれる
生き方をおすすめします!

【有機米 3,800 円～5,000 円 自然栽培米 6,000 円 どちらが高い？】

確かに有機米や減農薬米より自然栽培のお米は高いと思われるかもしれませんが。有機米や減農薬米と比べて 5kg で 1,000 円～2,000 円程度高いでしょうか。しかし、魚沼産のお米の中には、自然栽培米の 2.5 倍ほどの 1kg4,000 円以上で売られているお米もあります。要は何に価値を置くかです。1 ヶ月に 5kg で 2,000 円違うとしても、1 日換算すればたった 70 円程度の差なのです。

でも、家族が反対するじゃないかな・・・

金額だけを見て、ご家族はそう思うのかもしれませんが。しかし、あなたの大切な家族の体を守るために 1 日 70 円は本当に高いのでしょうか。その金額だけ安くして、何倍になるかわからないリスクを背負うことが、本当にあなたとご家族の望むことなのでしょうか。主食のお米だからこそ、ご家族の理解を得やすい少量からでも取り込んでみてください。

子供に高いお米を食べさせてもこぼすし、味なんて分かってないし・・・

病におかされた野菜やコメを食べることが、あなたのお子さんやお孫さんにとって本当に望まれることなのでしょうか。未来のある子供たちだからこそ、少しでも健康な食材を食べさせてあげてください。多くの会員さんが子供の味覚、体調の変化を実感していらっしゃいます。

あなたが自然栽培のお米を選択することで、家畜糞尿を始めとする肥料、農薬の危険に、あなたとご家族の身をさらさずに済むのです。そしてさらに環境を汚すこともないのです。そして、木村さんと同じように自然によって磨かれていく自然栽培農家を支えることができるのです。

ぜひ自然栽培のお米や野菜をお試してください！

ここまで、読んでくださった方だからこそいいます。

ぜひ、一度は肥料・農薬の危険の極めて少ない自然栽培のお米を試してみてください。お米は日本人にとって主食です。米を食べなくなったとはいえ、主食ですので、食べる頻度の高いものです。そして昔から日本人は米や穀類を柱とする食生活で生きてきたのです。米で給料を支払い、米を給料として受け取り、米で国力や経済力を表した日本人。木村さんと同じく、自然の力を引き出すことに尽力した自然栽培のお米を是非召し上がっていただければと思います。

真剣に食を考え資料をご請求くださるあなたのために「お試し入会」を私たちはご用意しています。

いきなりハーモニック・トラストの正会員ってというのはちょっと・・・内容もよく分からないし・・・と思われるのも当然です。そこで、「お試し入会」では、ハーモニック・トラストの正会員と同じシステムを年会費と入会金を支払わずに試すことができます。

詳しくは個人宅配「ハーモニック・トラスト」資料をご請求の上、「お試し入会申込用紙」にてお申込みください。どんなにお金を持っていようとも、求めなくてはこの自然栽培の農産物を手にすることはできません。有機ですら日本のお米生産量の0.13%しかありません。自然栽培は現段階では本当に本当に貴重なものなのです。

ここまでご覧になって、感じるものがあるのなら、一度はお試しになることをおすすめいたします。ダイヤモンドなら100gでも、百万円単位の値段がつくのでしょうか。ただの石ではそうはいきません。ようはその内容であり質であり価値観が価格を決めるのだと思います。**私たちはあなたに家畜糞尿のリスクのない自然栽培のお米や野菜やくだものを、堂々と自信と誇りを持って、おすすめいたします。**

特別割引企画!

今なら「自然栽培歴**3年以上ササニシキ**」を
初回のお届けのみ**特別割引価格**で試せる!

いまなら、木村さんを皮切りにしてはじまった平成 20 年度産新米の自然栽培歴 3 年以上ササニシキをお試しいただいた方、限定で特別にお試し 1 回目のお届けのみ特別割引価格にてお届けいたします。

家畜糞尿を使った肥料の危険を 3 年間は排除しているお米です。もちろん肥料の危険は家畜糞尿だけではありません。そのほかにも肉骨粉、魚粉、油粕、きのこの菌床、お茶かす、おからなど、一見安全そうですが、その栽培過程の農薬や肥料、化学物質の残留は排除できないものが多く、そのまま肥料として使われているのです。

3 年間という時間は、農家はその土地土地で肥料・農薬を絶ち、土の自然の力を引き出すことにかけた時間の集積です。ぜひそんなお米を食べてみてください。

一度この自然栽培歴 3 年以上ササニシキの定期宅配にご登録いただくと、時によっては、自然栽培歴 6 年～3 年のササニシキを随時、無作為にお届けします。あなたは時には 6 年、時には 5 年の自然栽培歴のお米を召し上がることができるのです!!ぜひ、この機会をお見逃しなく!!

正直に言って年間通じて新規お試し入会でお米をご案内できるかどうかは分かりません。

昨年は 7 月に新規のお米登録は受け付けを締め切らせていただきました。可能な限りご登録いただいたみな様に年間のお届けをしたいと考えているからです。

もし後日お申込みの際に、お米のご登録を受付できないことがあれば、申し訳ございません。あらかじめ、ご了承いただければと思います。

まずは宅配資料をお申込みください!

お申込みは下記 URL またはお電話にて

<http://www.naturalharmony.co.jp/trust/harmonic-trust/siryouseikyuu.html>

TEL **043-440-8566** (10:00~18:00 土曜日定休)

FAX **043-440-8577** (24 時間自動受信)

個人宅配「ハーモニック・トラスト」会員担当まで

最後にお伝えしたいこと

安心安全の本当の意味とは……

最後までお読みいただき、本当にありがとうございます。みなさまとのご縁に心より感謝いたします。

木村さんだけでなく、この肥料・農薬に頼らない自然栽培という農業をする農業者は、間違いなくより自然に寄り添い、より自然の力を引き出すことに取り組んでいます。そうしなければ作物が育たないからです。それこそ人生をかけて、自然に向かっているのです。自然に磨かれる農家の姿、自然な土に戻っていく田畑の姿、人間と自然がおりなす姿は、本当の意味での安心を私たちに与えてくれます。どんなに汚れた土でも、自然は元に戻そうと働いていて、きれいに浄化していくことができる。これは自然栽培の田畑において事実です。そして人間がその土に関わることで田畑を元に戻すスピードを速めることもできるのです。それが自然栽培です。

安心安全は自らの外に求めるものではなく、自らの内側に築き上げるものだと思うのです。あなた様ご自身が生活により自然なものを取り込み、より自然なお米や野菜やくだものを取り込む実践を重ねることで、あなた様、自身の中に違いをつくり、「安心安全」たる自己を築いていただければと思います。

ここでお伝えしきれないこともまだまだあります。お試し入会1回目では、自然栽培米について、さらにお伝えします。ご縁があれば、あなた様とお試し期間、初回のお届けにてお会いできるのを楽しみにしております。

末文になりましたが、あなた様のご健康とご多幸を心より祈念しております。

株式会社ナチュラル・ハーモニー
肥料を入れない自然栽培野菜の個人宅配「ハーモニック・トラスト」
宅配事業部 事業部長 田辺 寛雄

追伸

生産依頼と私たちのミッション＝使命について

都合のいいときに都合のいい量だけを買う。これが一般的な流通業者のスタイルです。しかし、それでは農家さんが生産に集中することができません。田畑でできたものをすべて買い取らせていただく。その代わりに、継続してその田畑で自然栽培に取り組んでいただく。それが私たちのスタンスです。

自然栽培ササニシキの農家への生産依頼(作付け)は毎年1月から2月に行います。この時点でその年の10月から翌年の9月までの出荷量を予想して生産依頼を行います。通常の流通業者は仕入れるだけなのでリスクが少ないのですが、私たちは農家に一定面積または一定量のお米の生産を依頼し買い取ることを約束します。それだけ私たちもリスクを背負います。しかし、そうすることで、農家さんには安心して自然栽培に取り組んでいただくことができます。

最初、6反部(1,800坪)で約3トンだった出荷量がいまでは、新たな生産者が加わってくださり、4,230町歩(127000坪)で約200トンの収穫量にまで広がっています。石山さんが自然栽培をある意味「農業革命だ」とおっしゃいます。実践者にそこまで言わしめるほど、それほどに意義のあるこの取り組み。会員制をとり、継続して買い支えていただく。

このシステムを取ることで、切り離されてしまっていた「作り手」「暮らし手」「つなぎ手」の心と空間の距離を無くし、本来の自然な土と農業、食、そして何より「心と体の健康」を共に取り戻していく。このことが私たちの使命＝ミッションです。ご高覧ありがとうございました。

参考文献

農文協『地下水の硝酸汚染と農法転換』著者 小川吉雄

文春新書『薬が効かない!』著者 三瀬勝利

中公新書『薬はなぜ効かなくなるか』著者 橋本 一

草思社『食品汚染がヒトを襲う』著者 ニコルズ・フォックス

推薦文

芸術自然栽培研究会

会長 木村秋則

正に芸術米です！

石山範夫さんを始めとする自然栽培に取り組む方々のお米はまさに芸術米です。

生態系を考えた「食」の生産を訴え、全国を歩いている中で、6年前の春早くに石山さんと出会いました。長年有機栽培に取り組み、大きな壁である除草対策には独自の作業機を研究開発、そして製作まで自分でするほどで、更なる飛躍として自然栽培への転換を話した処、こころよく理解を示し、この年、耕起・しろかき・水管理をはじめ細部の調整をするため60アール(1,800坪)からスタートしました。

さすがに有機栽培の経験豊富な石山さんは自然栽培においても、大難関である除草対策も独自開発機でクリアし、秋には自然栽培で見事なイネを育ててくれました。

平成16年は台風による塩害で苦汁を味わいました。しかし平成17年からは韓国からの海外視察団も驚くほどの生育で、これは正に石山さんとイネと自然が創った芸術そのものであり、イネ本来の姿です。

平成18年度産以降、さらにお米の収穫は安定してきているようです。

平成18年からは、石山さんの姿を見てきた新しい仲間が増えられました。

新たな生産者の齋藤一樹さん、一箭研さん、高野健吉さんも芸術自然栽培研究会とナチュラル・ハーモニーのナチュラル&ハーモニックスクールの共催で行われた平成18年4月の自然栽培稲作セミナー実践圃場編に参加して下さったメンバーです。3人の方々と、その指導に当たられた石山さんの並々ならぬ努力に感謝する次第です。

平成19年からは桑原秀夫さん、平成20年からは阿部さん、岩井真二さん、橋詰善庸さん、木村純さん阿部知里さんが加わって下さったと聞いています。

自然はホスピタル。また医食同源と古くから言われています。健康が一番です。毎日の食であるお米に石山さんをはじめとする自然栽培米を強くお勧めいたします。



木村秋則氏
リンゴ手伝い業
芸術自然栽培研究会会長
自然栽培リンゴ農家
NHKプロフェッショナル出演 (2006年12月)
著書：『自然栽培ひとすじに』

石川拓治著『奇跡のリンゴ〜「絶対不可能」を覆した農家
木村秋則の記録』 / 竹下文子著 『リンゴのおじさん』